日本女醫會誌
復刊第166号
題字　吉岡彌生

巻頭言

二十一世紀に夢を

副会長　加藤竺子

期待と不安の中で迎えた二十一世紀、日本新生に向け各方面で数々の改革が推進されようとしています。新年早々には国家行政組織法が再編成され、一府十二省庁の新体制が始動しました。私たちになじみ深かった厚生省は厚生労働省となり国民の出生から人生の終結まで一貫して、健康福祉、雇用労働、年金や社会保障などを総合的、一体的に推進する体制が整備されたわけで、二十一世紀の国民生活に安心と生きがい、活力をもたらすようなグランドデザインを期待したいと思います。

既に「健康日本21」の一翼として、「健やか親子21」事業が2010年までの国民運動計画として取り組まれています。雇用の環境と母子保健の両面から、リプロダクティヴ・ヘルスの推進は大切な課題であり、女性の生涯にわたる健康を考えるとき、女性医師が女性としての特性と経験を踏まえ、プロフェッショナーとしての能力を発揮して活躍する大切な分野だと考えます。女医会としても会員の皆様が強い関心と使命感をもって、健康教育に取り組んで頂くために必要な新しい指導内容を盛り込んだ研修会を企画する予定です。

二十一世紀は女性の時代ともいわれています。男女共同参画社会づくりは世界の潮流ですが、わが国の医学、医療の活動現状はまだまだです。女性医師が十分に活躍できる時代を確実に創り上げるための自助努力を惜しんではなりませんが、そのための働く環境の改善や基盤整備は必須であり、会として支援の強化に務めたいと思います。会員の皆様のご意見をお聴かせください。

女性医師数の増加、専門分野の多様化に加え卒業校も数多くなってまいりました。先般各大学には、お世話いただく先生にとりまとめのお願いを申しあげたところですが、地域で横のネットワークをつくることで、情報の交流がもっと大きくなるのではないかと思います。

一昨年来ブロック別懇談会を、関東地区（於横浜）、中部地区（於名古屋）、東北地区（於仙台）と開催し、地方の皆様のご意見ご要望なども伺うことができました。次回は中四国地区（於岡山）を予定しております。地域の女医会を活性化させて頂くには何としても支部長のご協力なしにはできません。どうすれば地域の女性医師が支部を中核として横のネットワークを持って、魅力ある交流の会がつくれるか、一度支部長にお集まり頂き、今後の女医会の在り方や活動についてご意見を伺う機会を計画したいと検討中です。最近「女性のお医者さんを紹介してください」という問い合わせが多くなりました。いろいろな専門分野で活躍されている方も多くなりましたので、人材バンクの登録を急ぎ事業化して、全国ネットでご要望に対応したいと計画中です。

来年5月には、日本女医会創立百周年を迎えます。多くの先輩が厳しい時代にもめげず努力された歴史に思いを馳せるとき、二十一世紀に生きる私たちの役割と責任の重さを感じます。共感と連携は何よりも大きな力です。女医会もエンパワーメントが必要です。共に同じ道を選び自

もくじ

巻頭言……加藤　竺子（1）
〈平成12年度学術講演研修会〉
学術講演研修会を開催して……澤口　彰子（2）
医療保険の現状……前田由美子（2）
地下鉄サリン事件と法医学……高取　健彦（3）
自民党主催の女性関係団体との新年懇談会に出席して……田中　蘭子（3）
2001年の国連に関する主要会議について……橋本　葉子（4）
女性医師の学会活動に関する要望書……（5）
「第2回子どもの商業的搾取に反対する世界会議」に関する第3回懇談会に出席して……橋本　葉子（8）
「子どもの商業的搾取に関するシンポジウム：第2回世界会議に向けて」レセプションに参加して……松本　文絵（10）
「十代の性と健康」指導医の養成講座を企画しています……対馬ルリ子（11）
女性医師シンポジウムのご案内……木戸　道子（11）
日本脳神経外科女医会をここまで育てて頂いて……加藤　庸子（12）
〈図書紹介〉「病をおこす心　病を癒す心」……吉永　陽子（13）
氷の壁を割って……内坂由美子（15）
「明治おんな橋」を観て……稲生　襄（15）
〈支部だより〉埼玉支部から……源川千鶴子（16）
＊百周年記念事業へご協力をお願いします……（2）
＊第46回定時総会のお知らせ……（4）
＊不要機器寄付のお願い……（11）
＊新医学用語豆辞典……（12）
＊人材バンク登録について……（13）
＊「いきいき」執筆者募集……（15）
＊理事会議事録……（16）
＊会員動静……（18）
＊編集後記……（18）

己実現を図ろうとする女性医師が互いに知恵と努力を結集して、新たな活躍の歴史を築きあげようではありませんか。特にこれからの時代を担う新進気鋭の方がたと、それぞれの時代背景のなかで、努力された先輩との、お互いの経験を通しての交流は強い絆とエネルギーが生まれると思います。ぜひ一人でも多くの女性医師が女医会に入会され、協働の力となってくださいますよう会員倍増キャンペーンにご協力をお願いいたします。

来たる4月19日からシドニーで開催される第25回国際女医会議総会で次回開催地が決定されますが、もし日本と決定されたら会としては、これを百周年記念行事として位置づけ国際会議の成功に向け鋭意努力してまいります。その節は皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

平成12年度学術講演研修会

■時：平成13年1月27日
■於：京王プラザホテル

学術講演研修会を開催して

学術担当　澤口彰子

平成12年度最後の学術講演研修会は平成13年1月27日（土）に開催された。

今回は日本医師会総合政策研究機構の前田由美子委員と科学警察研究所の高取健彦所長（前東京大学大学院医学研究科教授）のお二方からご講演をいただいた。

始めに前田先生から「健康保険の現状について」をうかがった。前田先生は日本医師会の頭脳集団である総合政策研究機構の健康保険に関する権威である。複雑な健康保険についての概略を理解しやすく説明され、また歯切れの良い話しぶりであった。制限時間をオーバーするほどの質疑応答があり、活気ある研修会の出だしとなった。

ついで高取先生から「地下鉄サリン事件と法医学」をうかがった。高取先生は北海道大学医学部法医学教授、日本法医学会理事長などの要職を歴任され、現在国家的規模で行われる犯罪捜査研究の第一人者である。国家を揺るがすほどの大事件となったサリン事件解明のために努力されたことを話された。事件当時は全く不祥であったサリンについて、科学的手法を用いて、ソラン、ブタンと同一系列の化学兵器毒であると同定され、公判に役立てたことなどを、事件当時の状況を踏まえて情熱的に講演された。

研修会当日は例年にない大雪にみまわれ、参会者が少ないのではと心配されたが、法医学受講中の東京女子医科大学学生八七名の聴講もあり、質疑応答とともに、若さあふれたアクティブな会となり、成功裡に終了した。

医療保険の現状

日本医師会総合政策研究機構　前田由美子

毎年のように医療保険の「赤字」決算が発表される。しかし、私たちは十分な保険料を支払っている実感がある。なぜ赤字になるのだろうか。

1998年度の決算を見ていこう。二年も前に遡らざるを得ないのは、保険者の事業年報が未だ出揃っていないためだ。

政管健保の例で見ると、1998年度には三四億円の黒字と公表されている。ところが民間企業や診療所などと同じルールで見直すと、約三五〇億円の黒字になる。なぜ公表値の三四億円はこれより三〇〇億円も小さいのだろうか。

第一に公表されている範囲は一部でしかない。政管健保には、健康勘定単年度収支、健康勘定その他、業務勘定の三つの勘定（財布のようなもの）がある。このうちマスコミ等で報道されるのは、健康勘定単年度収支の三四億円だけだ。業務勘定は、政管健保という組織を運営する財布だ。政管健保はやりくり上手な家計で、しっかり二〇〇億円を浮かせたのだが、この部分やその他の部分は公表されない。

第二に、売上高がすべて計上されていない。企業は損益計算書の売上高には徴収すべき額を入れる。取りっぱぐれのないよう必死に取り立てる。ところが、保険者の売上高は現金収入があった部分だけ。未収金は含まれていない。

組合健保も国保もカラクリは似ている。企業会計のルールで見直すと、組合健保は約一、三〇〇億円の黒字、国保は約八九〇億円の黒字になる。

組合健保では三・七兆円の正味財産があるのに赤字組合の数ばかりが問題視され、財政調整が十分とはいえない。保養所や病院で△六〇〇億円近い赤字を出してもいる。国保では、この年徴収すべき保険料三・六兆円のうち二、五〇〇億円が未収金だ。しかし国レベルの対策が十分とはいえない。また、支払基金や国保連合会では毎年のように一般管理費が上昇している。

このようなことは、報道される決

百周年記念事業へご協力をお願いします

既に何度もお知らせいたしておりましたが、来年5月18日(土)に、百周年記念式典（東京・新宿の京王プラザホテル、午後4時開始予定）を行ないますので、皆さまのご協力をお願い申しあげます。

(1) 本年8月18日(土)に文京区シビックセンターにおいて「百周年プレコンサート」を開催いたします。出演者は往年の大スター達に依頼中です。詳細は改めてお知らせしますが、チケットを販売しますのでご協力お願い申しあげます。

(2) 「百周年記念史」を作成しております。古い資料を探しております。何かお持ちでしたら、7月末日までにお願い申しあげます。

(3) 来年の5月18日(土)の記念式典に多数のご出席をお待ちしております。

(4) いろいろな事業を計画しておりますので、皆さまに募金のご協力をお願いしたいと存じます。改めてご案内を申しあげます。

算を鵜呑みにしていては見えてこない。事業年報を読み込んでも、欠落や欠陥があって解明は困難だ。厚生労働省から国民に対する説明責任はほとんど果たされていない。

日本は国民皆保険である。医療保険の経営が不透明なままに国民に負担を強いるような制度改革は絶対に避けなければならない。財務諸表がわかりやすく整備され、明快かつタイムリーにディスクロースされることを切に願う。

地下鉄サリン事件と法医学

科学警察研究所　所長　高取健彦

平成7年3月20日、営団地下鉄霞ヶ関で発生したいわゆる地下鉄サリン事件では、十二名の死者と五千名を超える急性中毒患者を発生させた未曾有の大惨事となり、世界を震撼させた。

この事件でわれわれは、五例の遺体を解剖する機会を得た。これらのうち四例は、急性期に死亡したケースで、他の一例は、事件後約一年三カ月経過して死亡したケースである。急性期に死亡した四例は、病院搬入時にはいずれも心肺機能停止の状態であり、縮瞳が強く、発汗があり、一部に筋強直が認められ、血中cholinesterase活性はきわめて低値であった。これらの所見からは臨床的に有機リン化合物の中毒と考えて矛盾するところはなかった。これら四例のうち、二例は蘇生術施行後心拍動が開始したのでPAMが投与されたが、一例は約二十時間後に、他の一例は約四十八時間後に心停止を来たしている。

このような場合、従来の中毒学的方法論では、血中から問題の有機リン化合物（以下サリン）そのものあるいはその水解物を抽出し、これを同定することで判断してきた。ちなみに、四例の急性死の血中からは一例にのみ、従来法によりサリンの水解物であるisopropylmethylphosphonic acid（IMPA）が検出されたが、他の三例からはこれが検出されなかった。そこでわれわれは、従来の考え方から発想を変えて、遊離型のサリン水解物を検出するのではなく、acetylcholinesterase（AChE）に結合しているサリン水解物を検出することを試みた。しかし、これには幾つかのバリアを越えなければならなかった。最終的には四名の被害者の赤血球膜に結合しているAChEから、IMPAとmethylphosphonic acid（IMPAからisopropanolが解離したもの）が同時に検出されたことから、四名の死因をすべてサリン中毒と断定し得たのであった。

地下鉄サリン事件が発生してから今年で六年になるが、われわれは決してこれを風化させてはならない。また、その後発生した和歌山の毒物混入事件とも合わせて、危機管理のあり方とその対策がいかにあるべきかを学んだ。

今後は、緊急事態を想定し、種々の規模の化学災害訓練を企画・実行していくことが必要不可欠である。

自由民主党主催の女性関係団体との新年懇談会に出席して

渉外部　田中蘭子

平成13年2月22日に赤坂プリンスホテルにて表記の会が開催され、数ある女性団体の中、一九団体の代表四四名と、自民党幹事長の古賀誠氏、

現在、女性問題連絡協議会々長の野中広務氏を始め三十数名の党役員の国会議員が参加し賑やかにはじめられた。

当女医会からは、松井ひろみ、山崎トヨ、田中蘭子の三名が出席した。一団体の発言時間は約二分ということであったが、やはり長々と演説調になる方が多く、その内容も、特に際立って注目するようなものもなく、さらにその間、同じテーブルに坐っている議員たちのみならず、ほかのテーブルより次々に出かけて来られて、それぞれ名刺交換される人々のざわめきの中では、目も耳も分離してしまい。私の中では前日に用意した発言の内容は、最後から二番目に発言の順が廻って来たときには、意欲も薄れ、どうでもよい感じになってしまった。私たちの女医会が、来年2002年に創立百周年を迎える伝統ある団体であることをアピールし、私が日常の診療の中で感じている、発足後十ヵ月経過した介護保険の現状に触れ、地方行政の責任とだけで済ますことなく、政府としても考慮して対応して欲しいと声を出したのみに終った。このような場での発言よりも、それぞれの提言、要望を執拗に繰り返し行う方がより効果的ではないかとの感を深くしたのだった。

しかし、党役員の挨拶の後、折角のご馳走に手をつけるひまを惜しんで、同席の議員さん方と話し合い、隣席の女性局次長、松島みどり氏は、ご自身も夫婦別性の婚姻問題の当事者でもあって不自由をしのんでおられるなど、話は合い、国会内でも反対論は観念的で、現実には娘しかいない人や婿養子の人たちは、十分な問題意識を持っていると伺うことができた。見通しは明るいように思えたが、私たちも飽きずに要望していくべきと再認識したところである。それにしても山のような料理を残して時間切れとなり、このような会のあり方もまた問題だなと、心痛む思いで帰途についた。

2001年の国連に関する主要会議について
—第55回国連総会報告の中から—

会長　橋本葉子

毎年、国連総会第三委員会に国連総会政府代表代理を、国連NGO国内婦人委員会から推薦していることは、前にもご報告いたしましたが、2000年の第55回国連総会にも日本女性法律家協会前副会長の柳川恒

社団法人　日本女医会第46回定時総会のお知らせ

総会まであと一ヵ月となりました。先生方にはますますお元気で、ご活躍のこととお慶び申しあげます。すでにお申し込みいただいておりますが、第46回総会を左記の日程のように開催いたします。

日　時　平成13年5月19日(土)
場　所　ホテルニューオータニ佐賀(電話　〇九五二―二三―一一一一)
〒八四〇―〇〇四七　佐賀市与賀町一―二
評議員会　午前10時半～12時半(昼食を含む)
総　会　午後1時～午後5時　登録費　三、〇〇〇円
講演会　午後4時～午後5時
講師：佐賀医科大学学長　杉森　甫先生
懇親会　午後6時～午後8時半　会費　一五、〇〇〇円

総会講演会変更のお知らせ：講師、時間ともに変更となりました。総会の中に特別講演会がありますので、ぜひ一時からご参加くださいますようお願い申しあげます。

〈諸行事のご案内〉

●5月18日(金)
一、**ウインブルドン九州テニスツアー**(午後1時半～4時半)　費用　プレー費のみ
二、**講話**　毛利敏彦先生(午後5時半～午後6時半)
三、**前夜祭**　ホテルニューオータニ佐賀(午後6時半)　費用　一〇、〇〇〇円

●5月19日(土)
一、**朝食会**　午前7時30分よりご用意できます。　費用　三、〇〇〇円
二、**佐賀のご紹介**　午前10時～午前11時半
佐賀錦の実施販売　午前11時半～午後6時　コーヒーサービスがございます

●5月20日(日)
一、ゴルフコンペ　費用　プレー費のみ
二、唐津・呼子ツアー　費用　一四、〇〇〇円
三、吉野ヶ里・柳川ツアー　費用　一八、〇〇〇円
四、有田日帰りコース　費用　一七、〇〇〇円
五、有田一泊二日ツアー　費用　五〇、〇〇〇円

＊

●なお、まだ余裕がありますので、ご希望の方は事務局までお申し込みください。

社団法人　日本女医会

子氏が国連NGO国内婦人委員会から推薦され、国連総会第三委員会に出席され、その報告会が2001年1月29日(月)13：30～16：00まで、婦選会館で行われました。

第三委員会で主に討論されましたのは「女性・児童・人権・人道—二十一世紀への課題」についてでありました。その詳細については別紙が日本女医会事務局に保管されておりますので、ご覧頂きたいと思いますが、同日、外務省総合外交政策局国際社会協力部人権・人道課企画官の岡庭健氏が話されました「2001年の国連に関する主要会議について」を簡単にご紹介いたします。

特別総会として次の四つが予定されております。

①HIV／AIDSに関する会議：2001年6月21日～25日までニューヨークで開催されます。
・AIDSと人権
・性別とAIDS
・ワクチン・治療法の開発
・資金援助(五年間に約30億ドル)
・12月のG8他で2010年までの行動計画作成
・AIDSに対する偏見をなくすためのキャンペーン
・学校・学校外での感染予防
・ケアの重要性の徹底
等を討論予定。

②人種差別世界会議：2001年8月下旬～9月上旬までダーバンで開催予定。
・人種主義と戦うための施策
・予防・教育・保護
・マイノリティの問題
・事後の保障問題
等を討論予定。

③子どもに関する会議：2001年11月、ニューヨークで特別総会を開催。1990年の子どもサミットのフォローアップを行う。

④児童に関する世界会議：2001年12月17日～20日まで横浜で開催。児童ポルノや買春などを討論予定。

このように第55回国連総会第三委員会で討論された主な課題が、2001年の国連の主要国際会議に採り上げられ、各国の活発な議論が期待されております。

女性医師の学会活動に関する要望書
〈日本医学会各分科会への要望書〉

日本における女性医師数は1998年には三三、〇二三人と医師全体数の13・9％を占め、1980年の一四、五〇五人（全体の9・7％）から大幅に増加しています。二十九歳以下では女性医師割合28・4％、医師国家試験合格者は30％を突破しました。社団法人日本女医会は、1998年から女性医師環境整備小委員会を設け、女性医師の現況についての調査を行って参りました。2000年には、キャリア形成に学会活動が重要であると考え、専門医・認定医・指導医取得率、取得制度における妊娠・出産、介護休業期間の取り扱い、理事・評議員の選任率、学会託児所設置などにつき調査を行いました。このたび、その調査報告をご報告するとともに、調査結果から下記事項を要望いたします。

一、調査結果要旨

1　日本医学会所属九二学会にアンケート用紙を送付し、八五学会から回答を得ました。（回答率92・4％）

2　女性医師数の記載が無いものは五四学会（63・5％）でした。

3　認定・専門医制度を有しているものは四九学会で、女性数の記載がないものは一九学会（38・8％）でした。

4　リハビリテーションの専門医、温泉気候物理医の認定医を除いて、女性の認定医・専門医・指導医の取得率は全体に比して低率でした。

5　特に胸部外科、整形外科、脳神経外科、大腸肛門病などにおける女性の認定医・専門医・指導医の取得率は低率でした。

6　理事・評議員の女性選任率は

ほんとの悪玉は、なに？

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2.重篤な肝障害のある患者[本剤は主に肝臓において作用し、また代謝されるので肝障害を悪化させるおそれがある。]
3.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

【原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)】
腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。〔横紋筋融解症があらわれやすい。〕(「相互作用」の項参照)

●その他の使用上の注意については、製品添付文書をご覧ください。
●使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。

HMG-CoA還元酵素阻害剤
ローコール®カプセル 10・20・30mg
LOCHOL® フルバスタチンナトリウム
薬価基準収載
指定医薬品

製造：日本チバガイギー株式会社
発売販売　ノバルティス ファーマ株式会社［資料請求先］
東京都港区西麻布4-17-30
NOVARTIS
販売　田辺製薬株式会社［資料請求先］
大阪市中央区道修町3丁目2番10号

表1　女性医師 専門医・認定医・指導医　女性評議員・理事

	会員 全体	会員 女性	会員 女性割合(%)	医師 全体	医師 女性	医師 女性割合(%)	専門医 全体	専門医 女性	専門医 全体取得率(%)
〈専門医・認定医〉									
アレルギー	7663	ND	?	ND	ND	?	678	NA	?
血液	6065	約600	約9.9	NA	NA	?	1135	87	?
消化器外科	22288	ND	?	22288	ND	?	970	2	4.4
内科	79509	11855	14.9	79509	11855	14.9	5645	NA	7.1
消化器病	27102	NA	?	26719	NA	?	995	NA	3.7
温泉気候物理医	1452	104	7.2	1297	89	6.9	143	7	11.0
リハビリテーション	9209	800	8.7	8999	752	8.4	709	87	7.9
消化器内視鏡	27000	1200	4.4	27000	1200	4.4	2986	67	11.1
胸部外科　*	9000	NA	?	8850	100	1.1	1335	5	15.1
救急	10500	1582	15.1	8760	412	4.7	275	3	3.1
腎臓	7205	1034	14.4	6863	963	14.0	2180	175	31.8
〈専門医〉									
循環器	20513	ND	?	ND	ND	?	7444	NA	?
内分泌代謝	6000	NA	?	NA	NA	?	1200	NA	?
麻酔	8217	NA	?	NA	NA	?	4479	NA	?
医真菌	1250	NA	?	NA	NA	?	41	6	?
超音波医	14220	NA	?	NA	NA	?	1289	105	?
呼吸器	9132	1044	11.4	NA	NA	?	2656	153	?
耳鼻咽喉科	10427	NA	?	10310	NA	?	7742	NA	75.1
泌尿器	6773	ND	?	ND	ND	?	4946	NA	?
東洋医	8914	NA	?	7248	NA	?	4024	NA	55.5
老年医学	6383	761	11.9	約6200	ND	?	1676	100	約27.0
集中治療	5472	NA	?	4000	NA	?	623	NA	15.6
呼吸器外科	3250	NA	?	3250	NA	?	404	NA	12.4
医学放射線	7076	1088	15.4	6741	1075	15.9	3703	520	54.9
皮膚科	9459	NA	?	5749	3150	54.8	2691	1412	46.8
脳神経外科　**	7214	194	2.7	7129	194	2.7	4994	84	70.1
大腸肛門病	6018	184	3.1	5856	173	3.0	1379	8	23.5
産業衛生	7071	2499	35.3	3944	574	14.6	77	14	2.0
〈認定医〉									
感染症	6314	ND	?	ND	ND	?			
形成外科	3700	NA	?	ND	ND	?			
人類遺伝	2195	ND	?	ND	ND	?			
糖尿病	11700	NA	?	NA	NA	?			
病理	4279	NA	?	NA	NA	?			
臨床病理学 注)	約3000	ND	?	約1500	ND	?			
産婦人科	16052	2843	17.7	ND	ND	?			
輸血	3186	約1,000	約31.4	ND	ND	?			
核医	3500	NA	?	NA	NA	?			
法医学	1364	215	15.8	ND	ND	?			
外科	36034	ND	?	36034	ND	?			
眼科	12435	4798	38.6	12339	4776	38.7			
気管食道	3400	340	10.0	3400	340	10.0			
リウマチ	8214	ND	?	7978	ND	?			
小児科　***	16862	5105	30.3	16768	5060	30.2			
整形外科	19834	549	2.8	19834	549	2.8			
小児神経	3035	951	31.3	2954	934	31.6			
肝臓	9958	504	5.1	9782	490	5.0			
心身医	3461	920	26.6	2200	500	22.7			
小児外科	3044	107	3.5	3000	100	3.3			
人工臓器	3500	ND	?	2100	ND	?			

	専門医 女性取得率(%)	認定医 全体	認定医 女性	認定医 全体取得率(%)	認定医 女性取得率(%)	評議員 全体	評議員 女性	理事 全体	理事 女性	評議員・理事 全体	評議員・理事 女性	評議員・理事 女性割合(%)
〈専門医・認定医〉												
アレルギー	?	1718	NA	?	?	883	0	–	–	883	0	0.0
血液	?	1833	211	?	?	403	10	–	–	403	10	2.5
消化器外科	?	13463	97	60.4	?	300	2	14	0	314	2	0.6
内科	?	38911	NA	48.9	?	–	–	–	–	445	19	4.3
消化器病	?	12576	NA	47.1	?	190	NA	–	–	190	?	?
温泉気候物理医	7.9	765	65	59.0	73.0	96	3	–	–	96	3	3.1
リハビリテーション	11.6	5090	340	56.6	45.2	196	10	–	–	196	10	5.1
消化器内視鏡	5.6	10230	440	37.9	36.7	–	–	–	–	588	10	1.7
胸部外科　*	5.0	3844	20	43.4	20.0	291	1	15	0	306	1	0.3
救急	0.7	2056	63	23.5	15.3	193	2	13	0	206	2	1.0
腎臓	18.2	1483	91	21.6	9.4	579	26	–	–	579	26	4.5
〈専門医〉												
循環器	?					217	0	20	0	237	0	0.0
内分泌代謝	?					400	NA	–	–	400	?	?
麻酔	?					–	–	–	–	248	10	4.0
医真菌	?					–	–	–	–	100	20	20.0
超音波医	?					198	8	–	–	198	8	4.0
呼吸器	?					400	6	40	0	440	6	1.4
耳鼻咽喉科	?					307	NA	18	NA	325	?	?
泌尿器	?					17	0	–	–	17	0	0.0
東洋医	?					120	NA	20	NA	140	?	?
老年医学	?					618	19	–	–	618	19	3.1
集中治療	?					192	NA	–	–	192	?	?
呼吸器外科	?					245	0	12	0	257	0	0.0
医学放射線	48.4					–	–	–	–	198	2	1.0
皮膚科	44.8					200	9	–	–	200	9	4.5
脳神経外科　**	43.3					4991	84	–	–	4991	84	1.7
大腸肛門病	4.6					342	0	15	0	357	0	0.0
産業衛生	2.4					–	–	–	–	616	95	15.4
〈認定医〉												
感染症		757	NA	?	?	–	–	–	–	581	0	0.0
形成外科		1153	NA	?	?	148	4	15	0	163	4	2.5
人類遺伝		371	NA	?	?	130	NA	8	NA	138	?	?
糖尿病		2471	NA	?	?	–	–	–	–	526	24	4.6
病理		1675	NA	?	?	19	0	–	–	19	0	0.0
臨床病理学 注)		420	NA	?	?	350	NA	16	NA	366	?	?
産婦人科		11823	1628	?	?	–	–	–	–	393	5	1.3
輸血		199	19	?	?	204	14	23	0	227	14	6.2
核医		798	50	?	?	–	–	–	–	180	4	2.2
法医学		94	2	?	?	–	–	–	–	203	16	7.9
外科		28765	842	79.8	?	272	0	14	0	286	0	0.0
眼科		8040	NA	65.2	?	–	–	–	–	110	6	5.5
気管食道		1750	NA	51.5	?	–	–	–	–	211	3	1.4
リウマチ		2830	188	35.5	?	543	9	–	–	543	9	1.7
小児科　***		12204	3369	72.8	66.6	596	18	–	–	596	18	3.0
整形外科		12723	194	64.1	35.3	200	0	–	–	200	0	0.0
小児神経		951	269	32.2	28.8	201	21	–	–	201	21	10.4
肝臓		2633	100	26.9	20.4	–	–	–	–	165	0	0.0
心身医		580	71	26.4	14.2	150	10	20	0	170	10	5.9
小児外科		388	10	12.9	10.0	–	–	–	–	418	6	1.4
人工臓器		220	0	10.5	0.0	NA	NA	NA	NA	?	?	?

＊専門医ではなく指導医　＊＊専門医が評議員　＊＊＊代議員が理事，NA：回答なし，ND：データなし，？：データ欠損のため計算不能　注）臨床病理が臨床検査医と名称を平成12年に改称した。

〈環境整備小委員会　荒木葉子〉

表2　女性評議員・理事

	女性会員割合(%)	女性医師割合(%)	評議員		理事		評議員・理事		
			全体	女性	全体	女性	全体	女性	女性割合(%)
衛生	?	?	465	NA	–	–	465	?	?
結核病	?	?	NA	NA	NA	NA	?	?	?
神経	14.6	14.6	NA	NA	NA	NA	?	?	?
精神神経	?	?	150	NA	20	NA	170	?	?
動脈硬化	?	?	383	NA	–	–	383	?	?
不妊	?	?	NA	NA	NA	NA	NA	?	?
栄養・食糧	28.5	?	–	–	–	–	296	50	16.9
民族衛生	33.6	?	190	32	–	–	190	32	16.8
病院管理	32.3	?	86	14	–	–	86	14	16.3
ハンセン病	?	?	–	–	–	–	26	4	15.4
疫	24.7	?	–	–	–	–	247	26	10.5
衛生動物	4.9	?	31	3	–	–	31	3	9.7
医療情報	3.3	?	–	–	–	–	130	10	7.7
交通	?	?	–	–	–	–	107	8	7.5
細菌	?	?	164	12	17	0	181	12	6.6
保険医	7.4	7.6	–	–	–	–	64	4	6.3
先天異常	14.3	?	102	6	9	0	111	6	5.4
体力医	?	?	518	25	–	–	518	25	4.8
免疫	?	?	199	9	–	–	199	9	4.5
自律神経	7.4	7.8	298	11	–	–	298	11	3.7
新生児	20.1	19.5	250	8	9	0	259	8	3.1
リンパ網内系	7.3	7.9	313	9	–	–	313	9	2.9
医史	7.7	4.5	75	2	–	–	75	2	2.7
医科器機	9.4	1.7	116	3	19	0	135	3	2.2
熱帯医	6.8	?	150	2	–	–	150	2	1.3
農村医	1.1	1.0	126	1	–	–	126	1	0.8
医学教育	?	?	25	0	–	–	25	0	0.0
移植	?	?	197	0	–	–	197	0	0.0
ウィルス	約12.1	?	153	0	28	0	181	0	0.0
エム・イー	1.0	?	120	0	22	0	142	0	0.0
癌治療	5.0	5.4	–	–	–	–	261	0	0.0
矯正医	?	?	40	0	13	0	53	0	0.0
口腔科	約10.0	約10.0	–	–	–	–	173	0	0.0
心臓血管外科	0.3	?	–	–	–	–	123	0	0.0
脈管	約1.6	約1.6	450	0	30	0	480	0	0.0
薬理	?	?	1432	0	18	0	1450	0	0.0

NA：回答無し，？：データ欠損のため計算不能

低率であり、女性会員が30%以上を占める皮膚科、眼科、小児科でも理事・評議員の選任率はそれぞれ4・5%、5・5%、3・0%に過ぎませんでした。

7　更新時の妊娠・育児休業に伴う期間の延長を認めているのは二学会（産婦人科、消化器）のみで、介護休業については記載を認めませんでした。

8　学会託児所設置は七学会（集中治療、消化器外科、小児科、循環器、内科、麻酔、薬理）のみでした。

二、要望内容

1　第4回世界女性会議で採択された「行動綱領」の「H・女性の地位向上のための制度的なしくみ」の中には「立案および評価のための男女別のデータ及び情報を作成・普及すること」が明記されております。今後は、学会員数、専門医・認定医・指導医、理事・評議員など男女別のデータ作成を要望いたします。

2　資格更新期間に、妊娠・育児、介護休業を延長期間として認めることを要望いたします。

3　学会託児所設置を要望いたします。

4　理事・評議員に積極的に女性を登用することを要望いたします。

2001年3月吉日

社団法人日本女医会

「第2回子どもの商業的搾取に反対する世界会議」に関する第3回懇談会に出席して

会長　橋本葉子

この懇談会に出席して、初めて第2回子どもの世界会議についての概要が分かりました。日本女医会には今まで何の情報も入っておりませんでしたが、2001年1月29日に行われました柳川国連代表代理の国連報告会の時、外務省の方から2001年には大きな国際会議が四つあり、その一つが横浜で開催される第2回子ども世界会議であることを伺いました。そしてそのために京都でシンポジウムがあることもお聞きしました。しかし、その詳細はほとんど分からず、いきなり京都シンポジウムのあとのレセプションへの招待状が届きました。京都の松本先生に出席をお願いしましたが、出席された松本先生も戸惑われたのではないかと存じます。第3回懇談会をご紹介する前に、まず子どもの世界会議についての今までの経過をご紹介いたします。

「第1回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議」は1996年8月27日～31日までストックホルムにおいて開催されました。一二二ヵ国の政府、ユニセフ（国際連合児童基金）及びその他の国際機関、ECPAT（End Child Prostitution, Child Pornography and Trafficking in Children for Sexual Purpose)、及びその他のNGO等から約二〇〇〇名が出席し、子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議「宣言」、及び「行動アジェンダ」が採択されました。これらの全文については日本ユニセフ協会ホームページhttp://www.unisef.or.jpに掲載されております。

この第1回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議（以下世界会議と略称）のフォローアップを目的とする第2回世界会議を2001年12月17日～20日まで横浜で開催する事を、2000年5月26日に政府は正式に決定し、発表しました。これはNGO、国際機関及び政府が対等な立場で開催する国際会議であります。子どもの権利条約に関するNGOグループ、ECPAT、日本政府及びユニセフが共催団体となっております。

第2回世界会議の具体的な開催目的、内容、構成、運営体制などは既に共催者が「国際企画委員会」（IPC：International Planning Committee）を作り、現在までに二回の会合を開いております。

第1回IPCは2000年7月27日～28日、東京で開催。主要テーマは、①子どもポルノ、②子どもの性的搾取の予防、保護及び回復、③子どものトラフィッキング、④民間セクターの役割と関与、⑤性的搾取者、⑥立法と法執行とし、参加者数は、各国代表団七〇〇名、NGO六〇〇名、子どもや若者の参加も予定することにしました。

第2回IPCは2000年10月23日～24日、ジュネーブで開催。第2回世界会議の構成・運営案を検討するための小委員会（プログラム委員会）が設立されることになり、若者の参加については、ECPAT、NGOグループ、日本ユニセフ協会がそれぞれ三三名ずつ、合計九九名の参加者を募集することになりました。

国内では国会議員・日本政府・国内NGO、横浜市役所、専門家などが参加する「国内委員会」が開催準備にあたることになり、2000年10月18日に第1回国内委員会が東京で開催されました。国会議員は清水澄子氏、野田聖子氏などが参加されております。日本は国際社会より「子ども買春、子どもポルノ」の加害国と見られている意識が強いようですが、1999年には「児童買春、児童ポルノに係わる行為などの処罰及び児童の保護等に関する法律」を成立させるなど、着実な実績を挙げていることを世界に伝えるべきであるという指摘を、野田聖子議員はされております。

この第2回世界会議に向けて日本の市民社会は第1回勉強会を2000年7月26日、日本ユニセフ協会主催で開催し、ストックホルム会議がどのように企画・実施されたかの報告を受けました。

また、第2回世界会議のための第1回懇談会が日本ユニセフ協会が事務局となり、2000年9月5日、東京・参議院議員会館で開催され、日本の市民社会における情報・意見交換を進めることを目的として設立されました。この会で①外務省出席者より、第2回世界会議の概要及び国内行動計画策定方法の説明、②NGO側から若者参加とNGOの協力についての意見、③市民社会グループによる子どもの商業的性的搾取問題への取り組みの事例紹介などが行われております。

第2回懇談会は2001年2月16日、外務省と日本ユニセフ協会主催により国立京都国際会館においてシンポジウム形式で開催され、丸谷佳織外務大臣政務官の開会の辞、谷垣禎一衆議院議員、Vitit Muntarbhorn（タイのチュラロンコン大学教授、第1回世界会議報告者）の基調講演の後、第2回世界会議の主要項目について六名の方のプレゼンテーション及び六名のパネリストを迎えてのパネルディスカッションがありました。このあと、松本先生が出席されたレセプションが行われたわけです。

第3回懇談会は、2001年3月8日（木）13：00～16：00まで日本

ユニセフ協会主催、参議院議員会館第1会議室で開催されました。まず日本ユニセフ協会専務理事東郷良尚氏のご挨拶、第2回懇談会以降の伸展について、国内行動計画、京都シンポジウム、第3回国際企画委員会から報告があり、質疑応答の後、以下の議題について検討されました。

(1)「懇談会」の名称変更について：「横浜会議を成功させる会」に名称変更が承認されました。

(2)「子ども参加」の進め方について：

①川崎市の「青年の家」において2001年12月13日～20日まで子どもたちが合宿して諸問題を討議する。

②日本ユニセフ主催で、「国際交流センター」において2001年12月14日～17日まで若者を中心に諸問題を討議する。

(3)世界会議のパネリスト等の選出：2001年3月30日(金)17：00までに日本ユニセフ協会がまとめて政府に提出する。

(4)世界会議への日本国内NGO参加者の決定：2001年3月30日17：00までに参加予定者を提出する。

(5)「犯罪です。子ども買春」ポスターの改訂について：省庁再編成に伴い、後援者名を変更し、第2回横浜世界会議のロゴマークを入れる。

(6)「ユニセフ子ども&若者セミナー*in YOKOHAMA*」について：2001年3月28日(水)10：00～17：00神奈川大学で開催予定。

(7)今後のスケジュール：

①夏のツアー：2001年7月29日～8月4日までカンボジアへ。

②国内行動計画などの報告書を2001年5月22日提出予定。

③国連特別委員会を9月に開催予定。

④*Bought and Sold*（買われ、売られて）の日本語字幕版ビデオ完成記念上映会および弁護士林陽子先生の講演会を、横浜市女性協会主催で2001年3月10日(土)14：00～16：00まで、フォーラムよこはま　会議室1で開催予定。

日本女医会は国連NGO国内婦人委員会のメンバーですので、今回の懇談会のご案内が届いたものと考えますが、これまでの経過が全然分からない状態での会議出席でしたので、異質な感じの会議でした。国内行動計画の中の(2)児童の商業的性的搾取の防止の項目の中に、(3)性教育等、教育を通じた児童の商業的性的搾取の予防を挙げており、学校における性教育の充実に努める、等いろいろ措置の項目が挙げられておりますが、これらの具体案をどうするつもりなのかなど、今回の会議には一切触れられませんでしたので、国連NGO国内婦人委員会のメンバーはむしろ蚊帳の外の感じが致しました。YWCAの代表の方も出席しておられましたが、やはり今まで何のご案内も頂戴していないと言っておられました。京都シンポジウムの時もシンポジウムのご連絡はなく、ただ、懇親会のご連絡のみがあったという非常に変則なご連絡でしたので、会議が終わったあと、ユニセフ事務の方にどうなっているのかお聞きしましたが、何もお分かりにならないようでした。今後、何度か準備会議が開かれ、国際会議が開催されることになりますが、日本女医会として参加すべきか否か、一考を要するのではないかと思いました。

「子どもの商業的搾取に関するシンポジウム：第2回世界会議に向けて」レセプションに参加して

京都支部　松本文絵

児童買春や児童ポルノの根絶を願った「児童の商業的性的シンポジウム」（外務省・日本ユニセフ協会主催）が2月26日、京都国際会議会館で開かれ、国内外の専門家やNGOメンバーら約二百名あまりが参加し、取り組みの現状や問題について話し合われた。——これは私が受付嬢に取材して知ったことで、私は、国連NGO国内婦人委員会一〇団体の一つである日本女医会・橋本会長代理でレセプションに参加——しました。

結論は、シンポジウムでのディスカッションがながびき、一時間半も待たされましたが、参加していた神戸大や同志社の女子学生の話によりますと、1996年ストックホルムでの第一回において、日本は児童ポルノの輸出国と指摘され、その結果1999年に「児童買春・ポルノ禁止法」ができ、本年12月に横浜市で第二回目の会議を開くため、貧困や暴力などの諸問題の意思決定の最初から若い人の参加をねがっての催しだったようです。

これはまったくの私見ですが、パネラーの何人かは覆面にして、売買春のコンダクターの生きた声を聞かせてもらうことが、この種の会の厚みになるのではないかなーと思いました。

Lilly
Answers That Matter.
「勇気」という名の薬には、かないません。
1999年度ミス・アメリカ、ニコール・ジョンソンさん。
19歳で1型糖尿病を発症。適切な治療で
血糖コントロールを行い、病気を克服。
私たちイーライリリーは、彼女と一緒に、
糖尿病の早期発見・早期治療の大切さを訴える、
さまざまな啓発活動を展開しています。
日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5
リリーの情報はインターネットでご覧になれます。http://www.lilly.co.jp

「十代の性と健康」指導医の養成講座を企画しています

環境整備小委員会　対馬ルリ子

近年ティーンエイジャーの人工妊娠中絶率は増加を続けており、平成12年度には当該人口千対10・6と過去最高となりました。これは年間で約百人に一人が妊娠中絶を経験するという恐ろしい数字です。いかに安全に中絶手術が行われるとはいっても、十代にとってその身体的、精神的、社会的ダメージの大きさは計り知れないものがあります。

また同時にクラミジアなどの性感染症も増え続けており、クラミジア腹膜炎・子宮外妊娠などで病院に救急搬送されてくる少女も珍しくなくなりました。

これは、性交開始年齢が年々低くなっているにもかかわらず、避妊や性感染症など健康に関する科学的な教育が立ち遅れているため、十代が正しい知識をもたずに無防備な性行動をくりかえしていることのあらわれです。一見豊富に見えても、性や避妊、性感染症に関する正しい知識は、ほとんど得られていないのが現状です。

日本女医会は、今年度、特にわが国が立ち遅れ重大な健康問題がもちあがりつつある、青少年の性とこころの健康にとりくみたいと考えています。母として、地域の中核として多くの人々の健康を支える女性医師が、身体的・精神的な健康の視点から科学的な正しい情報の提供ができ、地域の行政や教育との有機的なネットワーク作りができるためのリーダーシップトレーニングを企画しています。（今秋の予定です）

また、"性と健康を考える女性専門家の会"と協力して、中高生むけの教育ビデオ「避妊」および授業で活用できるテキストブックを作成中です。これは、セットで一万八千円ですが、今予約すると一万六千円と割安です。（問い合わせは、性と健康を考える女性専門家の会事務局：03-5565-3588へ）

すでに世界の女医会は、二十一世紀のWomen's Healthの推進にむけて動き出しています。女性ひとりひとりの真の健康（Women's Health）は、男性も女性も含んだすべての人間の健康や幸福と同義です。

日本女医会も、日本の未来をになう青少年たちが、男女ともに、性と愛によって紡がれた生命の尊さを知り、自分自身を価値ある存在として誇りをもって社会に出て行けるよう、専門家としての支援をしたいと思います。家庭と地域の新しいリーダーとして、日本のWomen's Healthの推進役として、ぜひご一緒に勉強しませんか？　ご参加をお待ちしております。

不要機器寄附のお願い

ジャカルタ（インドネシア）の中心部にあるスラム街で医療奉仕をしている医師から医療機器の支援願いが来ております。もし、左記の機器で不要になっているものまたは買い換えを予定している方がおられましたら、日本女医会までご連絡下さい。

一、ポータブル心電計
二、超音波検査機
三、スペクトロフォトメータ（血液化学成分分析用）
四、歯科治療ユニット
五、ポータブルレントゲン
六、ポータブルスピロメータ
七、徐細動器

第26回日本外科系連合学会学術集会　女性医師シンポジウムのご案内

港支部　木戸道子

第26回日本外科系連合学会学術集会（会長：帝京大学第一外科高見博教授）において女性医師のさらなる活躍を目指したシンポジウム「医師であること、女性であること」が行われます。

開催は平成13年6月28日（木）午後1時から3時、場所は東京新宿の京王プラザホテルです。女性医師の増加とともに、外科系におきましても女性の活躍がたいへん期待されておりますが、勤務環境等、まだまだじゅうぶん整備されているとはいえないのが現状です。

そこで本シンポジウムでは女性医師をとりまくさまざまな問題点を考え、それに対する解決策を模索、提言していきます。二十一世紀の初頭にあたり、まさにタイムリーなテーマではあり、本学会のなかでも大変注目を集めています。公募の演題も含めて二一人のシンポジストが登場される予定で、全国の女子医学生、研修医をはじめ、男性医師も交えた活発な討論が期待されています。

日本女医会からはご後援を賜り、擁しておられる幾多の優秀な会員の先生方のなかからシンポジストのご紹介をいただきました。第一線でご

活躍中でご多忙にも関わらず、多くの先生方から快くご協力を賜り、次の先生方をご招聘申しあげることとなりました。

水田祥代先生（九州大学大学院医学研究院生殖発達医学部門小児医学講座小児外科学分野）、土方浩美先生（東京女子医科大学看護学部整形外科）、加藤庸子先生（藤田保健衛生大学脳神経外科）、村田洋子先生（東京女子医科大学消化器病センター）、岩平佳子先生（東邦大学附属大橋病院形成外科）。

この他、昨年の本会会誌におきまして原稿を掲載されておられた「働く女医の夫の会」の藤巻高光先生をはじめ男性も、外科系に限らず、内科系からも、そして海外からも、多くの先生方が参加されます。

そこで日本女医会の会員の先生方にお願いでございますが、本シンポジウムにぜひご臨席たまわり、ご意見を頂戴できますでしょうか。

また、これから医師を目指して勉学中の医学生、そして研修中の先生方にもぜひご参加をお薦め申しあげたく、会員の先生方の教室や大学のご後輩にお声がけいただけましたら、さらに幸いに存じます。

（問合先：木戸道子 Fax：03-3943-0564, Email: mkido@nifty. ne. jp）

日本脳神経外科女医会をここまで育てて頂いて

愛知支部　加藤庸子

諸先輩の先生、会員の皆様には日頃より私ども、脳神経外科女医会にはご指導・ご支援賜り厚くお礼申しあげます。また、会の成長にあたりましては前会長の佐藤千代子先生には長年にわたり格別なるご助言を賜り深謝申しあげます。

そもそも、脳神経外科女医会は米国の脳神経外科女医会が発足した翌年1990年、当時専門医を持つ女医が東京での脳外科総会の間に顔合わせをし、より密な連携を持ち協力して行きたい、という発想から始まりました。以後女性脳神経外科医の数はここ五年間を除き急増し、現在二〇〇名弱まで成長してまいりました。米国の脳外科女医の友人の一人は陣痛室からレジデントに指示の電話を入れたり、出産まぎわまで開頭手術を行っていました。学会には必ず母親やご主人を同行して、会期中は子供らの面倒を見てもらい、会に出席していました。しかるに一方、日本国内の脳神経外科女医の多くは残念ながら結婚後はactivityをさげざる得ない友人が多かったように思います。薬剤師と結婚した彼女は育児休暇をご主人にも取って頂き、自分は働くといったスタイルでがんばりました。しかし、多くは外来中心の仕事となったり、緊急や手術の無い条件をやむなく選ばねばならない現状でした。ご主人の海外出張に合わせ休職し、帰国後は何となくうやむやとなってしまう人も多かったように思われます。

先頃、米国コングレス学会では脳外科女医のお母さんが学会でエンジョイしている数日間の間、連れてこられた子供たちやその仲間は、ベビーシッター付で別の世界で楽しむプログラムがもうけられるようになりました。環境整備が強くいわれてはや長い月日がたちますが、待ったなしの緊急患者や死と隣り合わせが多い脳外科の世界では、休日といえど予定のたたない事も多く、その点二役、三役をこなさねばならない女性たちにとり、まだまだ現状程度の支援では思いっきり仕事に打ち込める状態からはほど遠く、厳しい戦いの毎日であります。

さて、諸先輩先生方の当時では考えも及ばなかった夫婦別姓の件、私個人的には自分に着実に実力をつけていけば、さほど「どちらでも良い」といった考えを持っております。レジデントの時に秘書、看護婦、ヘルパーと、なにでも取り違えられ腹を立てた時代もいまでは年月をへて、とにかく患者・家族の信頼を得ることこそ手術への自信や治療への成功につながることを知り、小さなことはどうでも良くなってしまったところがあります。

さて機会あるごとに日本女医会の諸先輩にはいろいろな場面で支えていただきました。そして何より先輩方のその歩んでこられました見事な足跡はさながら専門を越え、われわれの人生の指標でありました。われわれ一同も先輩方を見習い、かつ神様が「そこまでやればもう良いですよ」とおっしゃる日まで、とにかく健康で頑張ろうと願っております。

生意気なことばかり書きましたことお許しください。今後とも、女性医師の地位の向上に絶え間ない努力をされてまいられました脳神経外科女医の先生方の変わらぬご指導のほど、お願い申しあげます。また、諸先輩方にお目にかかり、アドバイスいただけるまでに自分たちに磨きをかけて参りたいと存じます。

新医学用語豆辞典

グリアは中枢神経系のシナプスの数を調節し、可塑性に関与している

ニューログリアの一種であるアストロサイトは、脳内細胞の約半数を占めているにもかかわらず、その役割については長い間神経生物学的にはミステリーであった。もちろん、アストロサイトがシナプスの支持細胞であり、シナプス間隙からのイオンや伝達物質のクリーニング作用を有していることは判明している。しかし、もっと積極的機能があるように思われている。中枢神経細胞シナプス系におけるグリアの役割を実験的に研究するのは非常に困難であるが、中枢神経細胞のモデルの一つである網膜神経節細胞は99.5%の純粋培養が可能であるのを利用し、グリアの存在有無の培養環境下の実験を行った。グリアが存在しない環境下ではシナプス形成は僅かで、しかも機能的に未成熟であったが、グリアが存在する培養環境下では、成熟したシナプスが七倍も増加し、シナプス電位の増加、神経節細胞電流の増大、蛍光色素法及び電子顕微鏡観察によるシナプス数の増加、健常なシナプスの維持が良好等の知見が得られた。これらは中枢神経系のシナプス数は非神経性シグナル（グリアのシグナル）によって本来は調節され、グリアは積極的にシナプス可塑性に関与している可能性を示唆している。（Ullian et al., Science, 291：657-661, 2001より）

●図書紹介●

『病をおこす心　病を癒す心』

Paul Martin著　吉永陽子・高橋和江訳

神奈川支部　吉永陽子

〈創芸出版刊〉

親愛なる読者の皆さん、あなたは、やがては死の床に伏します。

このドキッとする文章ではじまる本書、原題The Sickening Mindは、保健所勤務から臨床の場に移りその醍醐味に没頭する中で遠のいていたじっくりと勉強するという時間を与えてくれた。一行を翻訳するのに本書に登場する数々の文学作品や哲学についての基礎知識が必要で何週も費やした。科学書にシェークスピアやデカルトが登場したのは予想外であり、自身の能力を超えているのではと不安でもあった。しかし週末、地域の図書館に通うのは、日々重症の患者さんに対峙する中でともすれば閉塞感に陥りがちな状況を打開するのに大いに役だった。

勤務先の長谷川病院は、いわゆる精神病院であるが、内科が充実し身体疾患を合併している患者さんの入院も多い。これは、たまたま合併している場合もあるが、摂食障害で標準体重の50%以下、アルコール依存症の果てに肝硬変で腹水が認められる、激しい混乱と興奮のために脱水、発熱等精神疾患が先行し、身体状態の悪化が精神状態の悪化を招いている例も少なくない。心の病が命を奪うのは自殺だけではない。多くの精神疾患を抱える患者さんの命を救ったのは、精神科学の進歩のみならず、IVHをはじめとする身体管理の進歩に負う所が多いのをまざまざと感じている。

そのような日常であるにもかかわらず「不定愁訴」という単語に対する陰性感情が私のどこかに燻っていた。フェミニズムと出会えたことで、さすがに女性は不定愁訴が多いのだからそのような訴えは取りあげても仕方ない等という態度からは脱却していたが、本当の意味で自分は医学という科学を扱う医師ではなかったと本書を読み反省している。

本書は「病は気から」を解き明かしてくれる科学書である。感染症、心疾患、癌、その成立と病態に心がどのように関係するのかという膨大な真実の科学的記述に出会ったことは、大きな驚きであり喜びだった。

特に進化論が登場する最終章は圧巻である。ヒポコンドリー状態が意味することは、それに困っている人は、症状の科学的解明を求めて、その生涯を捧げるということという件が最終章に登場するが実に示唆に富んでいる。そもそも、なぜ本書の冒頭に著者が避けがたい死を述べたのだろうとずっと疑問であった。参議院議員福島瑞穂氏は、本書の帯に病をおこさず、病を癒し、よりよく生きる考え方やヒントがいっぱい詰まった本と評してくださった。この原稿を読んだときに啓示のごとくその答えが浮かんだ。人は誰しも病から逃れ、よりよく生きたいと願い、健康を追求する権利を有している。そこには、コインの裏表のように死への恐れが存在する。よりよく生きようとすればするほど死への恐れも大きく膨らむというジレンマに対し森田療法では「あるがまま」を述べる。表裏一体となってはじめて本書が完成しているのだ。

ところで原作者は意図的に死とダーウィンの病を冒頭と最終章に配置したのだろうか。あらたな疑問がわいた。本書はさまざまな読者の知的創造をかきたててくれる一冊である。

人材バンク登録について

会員の先生方のデータバンクを作り、国内・外に日本女医会の力を広げたいと考えております。同封の用紙にご記入のうえFAX（03－3498－8869）にてご返送ください。ホームページよりダウンロードもできます。

氷の壁を割って

長野支部　内坂由美子

毎日窓の外に天からの白い贈り物が降ってくる。美しさを堪能すると同時に十五年長野に住んで、この白い厳しい季節によって二つに時間が分けられるという事が、住んでいる人々の人生観にも大きく影響を与え続けているのがわかる。

冬に分かたれないまでも、私たちの人生にはある時一回ずつ積み重ねて来た時間がさまざまの冷たく苦しい事情によって凍りついてしまうことがある。

本当はそこから一歩も動けない、動きたくない、終りにしてしまいたい、しかし動かなくてはいけない。やむなく人はその上に本当の時間でない時間を積み上げて生きていく。冷たく薄い氷のような時間。一つずつ丁寧に、壊れないように、割れて怪我をしないように、人を傷つけないように。

中年期、積み上がった氷の壁はその重みに耐えかねてヒビがいってくる。「もう本当の時間を生きなくてはだめよ」「あなたの人生は何だったの」という心の声が聞こえてくる。一人で壊す勇気がない。壊してしまって一体何があるのだろう…。

多くの患者さんがこの壁を壊すことに立ち会ってきた。破片で怪我をすることも、寒さに凍えてきたことを知ることもあった。

でも死ぬまで自分のものでない時間を生きることはできない。できないと思っていた氷を割ってみた時、その中に思っても見なかった暖かな花が咲いているのを何回も見た。

架空だと思えたその時間、本当は大切に生きていて、その結果咲かせた花があり、本人はまだその美しさに気付いていない時もある。思いがけなくその花の温かさに自分自身が暖められていった人は何人いることだろうか。

そして、それより思いがけないことに、氷を割っていく人の勇気に私たちも心から暖められていくのを感じる。

四年ぶり、山本富士子さん「明治おんな橋」を観て

神奈川支部　稲生　襄

平成9年初春公演（1月27日、明治座「静御前」）ではじめて舞台姿の山本富士子さんを観ていっぺんでファンになった。以来名前が登録されているらしく、毎回案内がくる。平成13年2月、四年ぶりに出演と知って私は飛びついた。2月13日(火)夜の部の〝明治おんな橋〟はとてもすばらしかった。(日本女医会会員の方々へのお誘いがあったのはその後のようであった)

ストーリーは「お美代」なる女性の半生記であるが、十四代将軍家茂が紀州時代から傍近く仕え、将軍後継となってからは共に江戸城に入り大奥の中臈となった。家茂とお美代のあいだには主従の関係を越えた深い心の絆があった。しかし家茂の正室として、和宮が降嫁することになり、大奥取締りの配慮で長州藩中屋敷に隠棲する勝光院に預けの身となった。

倒幕の嵐が吹き荒れる中、家茂が若くして病死、やがて徳川幕府は瓦解し、明治となった。

大奥に生きた女たちも新しい生き方を探さねばならなかった。お美代にもいろいろの縁談があったが、長州藩士はいやだった。薪炭商を営む商人の後妻として嫁ぎ、一生懸命に商家のくらしになじみ働いた。やがて夫が病いに倒れたが、夫に代わって店を切り盛りし、新商売（タドン？）の開発を手がけてゆき、成功した。やがて夫に死別し、長州藩士との出会いと別れがある。このような歴史の流れと身辺の変化にあいながらも、力強く生き抜いた女性の半生を描いたもので、大変小気味よく、観ていても励まされる作品であった。

お美代さんの相手役は林与一さんと西郷輝彦さんで、なかなか堂にいったものでうまかった。私は少し遅れていき、ちょうど富士子さんがきっぱりとしたせりふで「上様、お久しう存じます」と花道を出て行ったところで、ああ、なんてすばらしい大物女優さんであることよ、舞台に花が咲いたような感じを受けた。

さて富士子さんは腰の不調で、三年余舞台を休んでおられた。1950年十八歳で第一回ミス日本に選ばれた。三年後映画デビュー、種々の賞を総ナメにしてスターの座を築いた。39年から舞台女優となり、好評を博しつつ数々の舞台をこなしたが四年前腰をいため休んでいて、今回久しぶりの登場であった。

長谷川一夫が永遠の二枚目なら、この人は永遠の美女である。今でも少しも変わっていない。富士子さんのお姉さまが、長い間日本女医会の理事をつとめておられる川田喜代子先生で、大変な妹さん思いで「みて

＊執筆者募集＊

『いきいき』2001・9月〜2002・8月号

巻・号	テーマ	原稿締切
2001・9	空腹時と心	7月1日
・10	ADHD（注意欠陥多動性障害）	7月1日
・11	大人のアトピー性皮膚炎	8月1日
・12	手足のしびれ（朝起きたときに手や指がしびれるのはなぜ？）	9月1日
2002・1	痔の症状	10月1日
・2	HIVとエイズを再認識する	11月1日
・3	こむら返り	12月1日
・4	急性咽頭蓋炎	12月15日
・5	慢性頭痛	2月1日
・6	レントゲンについて（放射線ってどんなもの？体への影響等）	3月1日
・7	アレルギー検査	4月1日
・8	紫外線について	5月1日

（希望者は事務局にご連絡ください。）

やってくださいね」といつもいわれていた。私は静御前以前のは、映画も舞台もまったく見ていないが、歌唱力もおありの由、何枚かレコードも出しておられる。舞踊もすばらしいし、まさしく大女優である。

家庭的にも恵まれておられ、ご夫君の山本丈晴氏は作曲家、一人息子の茂晴さんは博報堂勤務で、ご希望どおりの薫夫人を迎え、お子様にも恵まれておられるご様子。この薫夫人曰く「ゴルフに行っても手をつないで歩く、仲のよい憧れのご夫婦です」と。永遠に幸あれと祈る。

三とせぶりに明治座に観し山本富士子　永遠の美女大輪の花

支部だより

埼玉支部から

公開講演会開催について

埼玉支部　源川千鶴子

平成13年2月10日、埼玉支部主催の公開講演会を大宮市大宮ソニックシティで開催しました。講師は埼玉医科大学放射線科教授、本部理事、平敷淳子先生。演題は「身体の中をのぞいてみよう」でした。群馬支部本部理事の丸茂先生がおいでになり「本部よりの応援です。」と自己紹介され「人間の素晴しさを画像診断で理解して頂きたい」と聴衆に挨拶されました。会場は一〇〇席、出席記帳は九八名、全員にアンケート用紙を配り終了後回収しました。医師会員は日本医師会生涯教育参加証三点を受領しました。

講演では始めに平敷先生が医師でない方の挙手を頂き、過半数と思われましたが、解り易いお話は、全員が納得、理解したと存じます。まず「人の体の見えない所を見よう」という事から始まり、スノーボードで頭を打った人の例で、レ線単純撮影で異常なしと思われても症状によりCT・MRI画像を撮る事によって病因を確定し得る場合を、大きな見易い画像で次々と示されながら進みました。脊椎、胸腹部から骨盤内まですべての臓器にわたって詳細で理解し易い説明でした。

終了後フロアからの質問に応じて頂き、CT・MRIの器械の説明、造影剤の身体に及ぼす影響など質問がありました。水素造影剤の人体に及ぼす影響は、二世代三世代が経過していない今、遺伝子レベルの事は不明であるが、患者さんの利益と損失を比べ、利があればレ線―CT―MRIの検索は必要であろう。放射線量としてはCTが最も多い。

MRIは二十年の歴史では磁場の実害は解っていない、超音波は無害、等のお答えでした。また最後に医師の質問で費用、人件費等の事まではっきりお答えいただきました。

終りに深井支部長は講師と会場の皆様にお礼を述べ「新しい明日の健康管理に画像診断を広めて頂きたい」と。また日本女医会、県医師会、各種団体からの助成に感謝されました。

講演は午後六時半より七時五十分まで続きましたが退席者なく熱心に聴いてくださいました。

次回の公開講座に向けて私たちは反省もいたし、支部の事業として進めるように努力せねばならないと考えています。

本部からのご支援に重ねて、お礼申しあげます。

理事会議事録

日　時：平成12年11月25日(土)　午後3時

場　所：日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、橋川、青井、大坪、内潟、川田、鹿田、澤口、清水、角田、松井、村田、森川、山崎(卜)、山崎(康)、吉崎　(以上17名)

欠席者：加藤、田中、久田、平敷、丸茂、山本(蒔)、山本(纊)、野澤、松本　(以上9名)

議事検討事項

10月理事会の議事録を承認。

一、庶務報告　鹿田理事

別紙どおり報告、承認

二、会計報告　川田理事

平成12年10月分収支別紙どおり報告、承認

三、各部報告

【広報部】　大坪理事

・第165号会誌の原稿を依頼中。会誌広告への協力を要請。

・百年史の第1回座談会を理事会と同日の1月27日に開催予定。

【学術部】　澤口理事

・1月27日15時より京王プラザ47階「あおぞら」で学術講演会を開催。講師は日医総研の前田由美子氏と科学警察研究所所長高取健彦先生。懇親会は17時より43階「スターライト」で行う。会員への案内を早めに送る。

【渉外部】　山崎トヨ理事

・11月18日(土)「女性2000年NGO日本大会」に出席の報告。救護班として協力。

【事業部】　村田理事

・人材バンクは外部からの要求も多く早急に実行したい。

・ロゴマークの商標登録は予算決定後とする。使用には許可が必要。

【庶務部】

・会員名簿は12月4日に出来あがる予定。

・11月12日(日)仙台で開催された「3回ブロック別懇談会」の報告が清水理事よりあった。本部より一〇名、全体で二四名の出席で成功裡に終了。

【会長報告】

・社会福祉・医療事業団へ「女性医師による十代の性と健康に関する支援事業」と題し、助成申請をした。

四、百周年事業の件

・式典、祝賀会

・2002年5月18日15時より式典、その後に祝賀会を行い、評議員会、総会は翌日の19日に行うということに最終決定した。

・予算

別紙予算案を検討し、予想収入から換算して一〇〇〇万円程不足する見込みである。一口一万円位の金額として、多くの人から募る方が良いのではという意見もあった。会計部と事業部で寄附を募るための委員会を作る。

・寄付金の免税処置

百周年事業への寄付は免税の対象にならないが、寄付して下さる方にとっての最良の方法を厚生省に問い合わせ中。

五、吉岡弥生賞、荻野吟子賞推薦の件

・現在まで「吉岡弥生賞、医学に貢献した会員」へ一名の申請がある。

六、定時総会の件

・5月19日(土)に、佐賀市ホテルニューオータニ佐賀で行う。佐賀市の助役さんからも協力いただけるとの事である。

七、その他

・広報部より

次号会誌より広告の申し込みが少ないので協力を要請。

・石原副会長より

来年の国際女医会議での短期旅行プランをJTBに依頼中。

・職員賞与について

二・五五ヵ月分を支給する。　以上

副会長（庶務部担当）石原

鹿田、清水

理事会議事録

日　時：平成12年12月16日(土)　午後3時

場　所：日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、青井、内潟、大坪、澤口、鹿田、田中、角田、久田、平敷、松井、丸茂、森川、山崎(卜)、山本(蒔)、吉崎、野澤　(以上20名)

欠席者：川田、清水、村田、山崎(康)、山本(纊)、松本　(以上6名)

11月理事会の議事録を承認。

報告事項

一、庶務報告　久田理事

別紙どおり報告、承認

二、会計報告　青井理事

平成12年11月分収支別紙どおり報告、承認

・現在までの会費納入状況の説明があった。

三、各部報告

【渉外部】　田中理事

・11月17日開催の女性2000年NGO日本大会が成功裡に終了。

【広報部】　大坪理事

・第165号会誌の割付け会議を12月22日に開催予定。会誌広告に協力を要請。

・「百年史」の第1回座談会を三神名誉会長、山崎名誉会長、橋本会長の出席で1月13日(土)に京王プラザで行う。第2回座談会は2月理事会開催日に会長、副会長、各部より一名、ナショナルコーディネーターの出席で計画中。古い資料の提供も要請。

【学術部】　澤口理事

・学術講演研修会の案内を会員に送付し、順調に準備中。ポスターを製作し広く学生に呼びかける。

協議事項

一、百周年記念事業の件

・事業部と会計部で考察した別紙委員を検討し決定した。会長より依頼状と委嘱状を送付する。

・事業部ではミキモトに〝日本女医会オリジナルジュエリー〟と〝ロゴマーク入りグッズ〟の作成を依頼し、販売する。

二、各賞選考委員会開催日の件

・別紙委員(案)を承認する。開催日は2月24日、理事会開催日午後2時からとする。

三、第4回ブロック別懇談会の件

・前理事会で3月に北陸方面と決定したが、気候等その他の条件を考慮すると順延した方が良いとの結論となった。以前より交渉中の岡山支部に6月の開催を依頼する。

四、その他

◇橋本会長より

・国連NGO国内婦人委員会、次期会長推薦の件

現会長の中村道子先生辞任の意向に伴い、次期会長候補を推薦してほしいとの要請があり検討したが、決定困難により日本女医会よりは回答は保留とする。

・「荻野吟子生家長屋門、修復工事への寄付協力願い」について

群馬県の恩光寺より依頼があったが、とりあえず会長交際費より一万円を寄付し、今後についてはまだ検討する。

・全国保険医団体連合会・医療研究集会のためのアンケートへの協力依頼について

今回は見合わせると決定する。

・杢杢社より「吉岡彌生全集」の予約依頼について

高額なので橋本会長より寄付してもらえるよう交渉する。

・11月27日東京女子医大を来春卒業予定の学生に「日本女医会」の紹介をしたとの報告。

◇ナショナルコーディネーターより

・2004年国際女医会誘致のためのプレゼンテーション予行を2月理事会時に行う予定。投票は会議開催中の19日～21日に行われると思われる。

・佐野先生への追悼が各国よりあった。また、各国より来たクリスマスカードを回覧する。

◇澤口理事より

・毎回の理事会に式典の進行状況を報告し、両陛下をお招きできるよう最大の努力をする。　以上

副会長（庶務部担当）石原

鹿田、久田、山本(蒔)

理事会議事録

日　時：平成13年1月27日(土)
　　　　　午後1時より
場　所：京王プラザホテル
出席者：橋本、石原、加藤、橋川、青井、大坪、川田、澤口、鹿田、清水、田中、角田、久田、松井、丸茂、村田、森川、山崎(康)、山本(蒔)、山本(纊)、吉崎、野澤（以上22名）
欠席者：内潟、平敷、山崎(ト)、松本（以上4名）

12月理事会の議事録を承認。

報告事項

一、庶務報告　　　　山本(蒔)理事
別紙どおり報告、承認

二、会計報告　　　　青井理事
平成12年12月分収支別紙どおり報告、承認
百周年記念事業費に大阪でのパソコン教室の収益金六二、三〇〇円を組み入れた。

三、各部報告

【学術部】　　　　　澤口理事
・本日開催の学術講演研修会の謝礼(交通費)を本日の悪天候下のご講演につき増額したい旨の提案があり、承認される。
・学生の申し込みが八五名ある。

【広報部】　　　　　大坪理事
・第165号会誌の近日中に発送予定。
・「百年史」第1回目の座談会の報告。第2回目は2月24日に「女医会の現状と将来」について会長、副会長等で行う予定。

【事業部】　丸茂理事・橋本会長
・日本女医会ロゴマーク入りオリジナルジュエリー（百周年記念事業の一環としての特別企画）とオリジナルグッズ（常時販売）の制作をミキモトに依頼した。ジュエリー販売の手続き等一切ミキモトが行う。売り上げの10％が女医会へ還元される。オリジナルグッズは女医会で価格も設定し、販売もする。
・配布された資料で検討したが、次回理事会まで各自の意見をまとめる。
・見本の作成を依頼する。

【会長報告】
・百周年記念事業担当委員について依頼状と委嘱状を送付したが、一人断りの連絡があった。

協議事項

一、平成13年度事業計画案および予算案の件――次回理事会に各部で検討した予算書を提出すること。

二、第46回定時総会（於佐賀）の件
・順調に準備中との報告があった。
・多数の参加を要請。

三、第25回国際女医会議の件および第26回（2004年）国際女医会議の件
・第25回のスケジュールは会誌に記載。
・第26回会議決定の選挙は20、21日に行うと思われる。一五票の投票権があるので理事の多数の参加を要請。
・国際女医会議本部へ提出する東京都知事からの招聘状をもらい、その返礼で2月2日に都庁を訪問する。

四、その他
・百周年記念事業の募金の方法について――2004年国際会議も続けてある見込みなので、まとめて募金をしたい。記念事業準備委員会を早急に開く。
・また、資金づくりのためのコンサート開催をしてはとの意見があった。7月か8月に開催。出演候補者、収益のでる方法等を考える。
・吉岡弥生賞には二名、荻野吟子賞には一名の推薦があり、学術研究助成には八名の応募がある。
・大学婦人協会の紹介があった。興味ある理事の多数の入会を要請。

◇丸茂理事より
佐賀総会でもバザー開催の方向で検討する。出店希望の業者もある。

◇澤口理事より
「選択的夫婦別姓に関する要望」を機会ある毎に女医会としてアピールしてほしいとの意見があった。

以上

副会長（庶務部担当）　石原
鹿田、清水、久田、山本(蒔)

会員動静（敬称略）

新卒入会　守屋　里織　中　央
新卒入会　田村有里恵　高　知

◇入会
加藤　直美（昭和61年卒）山　形
石川　典子（平成9年卒）神奈川
大川　尚美（昭和55年卒）神奈川
小林－味木　幸（平4年卒）神奈川
富井　純子（昭和48年卒）神奈川
吉住　順子（昭和57年卒）北
鎮西美栄子（昭和55年卒）品　川
今村　恭子（昭和57年卒）新　宿
山藤　晶子（平成8年卒）墨　田
塚田　弥生（昭和63年卒）文　京
八木　貞子（昭和20年卒）目　黒
西澤　悦子（平成6年卒）東女医内
北村　薫（昭和62年卒）福　岡

◇退会　一八名

◇物故
殿岡　幸子（昭和43年卒）群　馬
國谷喜美子（昭和7年卒）神奈川
青木　知恵（昭和3年卒）足　立
土屋　満枝（昭和26年卒）足　立
高橋　信子（昭和8年卒）都下東
高橋　龍子（昭和12年卒）広　島
高橋やす子（昭和17年卒）広　島
長尾スミ子（昭和8年卒）広　島
若江　百恵（昭和6年卒）熊　本

編集後記

うららかな春となりました。

わが国は女医の力がなければ、医療と福祉を支えていく事ができないことは、広く認識されるようになりました。2001年3月19日の朝日新聞の一面に、日本女医会の主張が大きくとりあげられました。育児休業中の専門医資格の延長容認をする学会は、二学会にすぎないこと、いろいろな医学会で、女性理事や評議員が極端に少ないこと、この調査をしたのは日本女医会環境整備小委員会であること、各学会に対し改善を求める要望書を提出したことが報じられました。この内容は本誌に詳しく掲載してあります。日本女医会の地道な努力が評価されつつあり、とても嬉しく思いました。

日本女医会百周年記念祝賀会は、2002年5月18日に京王プラザホテルで開催されます。準備が着々と進められ、理事会は熱気に包まれています。『日本女医会百周年記念史』という立派な本も発刊する予定ですので、なにか資料をお持ちの方は本部までご連絡ください。

介護保険が適用され一年が経過しました。医療や福祉の現場で、日々ご苦労されていることと思います。私たち女医は常に介護と受ける人たちの側に立ち、よりよい運営を目指していきたいと思います。

許されよ終の住み家のホームなれば放尿、徘徊、奇声あぐとも
（大坪）

日本女医会誌
第166号
平成13年4月25日　発行
編集人　大坪　公子
発行人　橋本　葉子
制　作　㈱金剛出版
発行所　社団法人　日本女医会
東京都渋谷区渋谷2－8－7
青山宮野ビル　電話 03-3498-0571
〒150-0002　FAX 03-3498-8769
http://www.jade.dti.ne.jp/~jmwa/
e-mail adress: jmwa @ jade.dti.ne.jp